

第十回栄区歴史双六探訪 副題 栄地域史蹟探究

平成 17 年 11 月 14 日(月)天神橋バス停(農協前)9:50 集合 雨天 11 月 21 日に順延

出発時間 10:00

天神橋バス停農協前(海軍燃料廠—資料 1 地図資料 2—本土決戦に関する遺跡、

開戦時の石油事情、横浜大空襲、ロケット戦闘機秋水など説明)—お杓文字様

10:20

10:30

10:40

跡—旧海軍病院(横浜栄共済病院)—本郷中学校—海軍燃料廠正門跡(P X)—

10:50

11:00

鎌倉7カミ跡(野村湘南本郷台)—燃料廠万年塀(区役所右側)—学校橋—燃料廠

11:20

11:30

万年塀(柏陽東側)—海軍燃料廠東門跡—旧本郷小学校校庭尊徳像(柏陽団地裏)

11:50

12:00

—慰霊碑—地球プラザ・[昼食](七石山横穴墳パネル・燃料廠施設パネル・秋水

13:30

13:50

14:10

パネルの説明)—燃料廠万年塀(信光社)—田中家—七石山遺跡—本郷台西公園

14:30

14:50

15:00

—海里橋—海軍燃料廠西門跡(警察学西門)—水道道路—燃料廠分室・官舎跡(

子安の京浜女子家政理学専門学校がS 20. 5. 29戦火で焼失S 21. 1. 15当所に移転

15:30

現在鎌倉女子大に校名変更された)—公田交差点解散

今回は栄区の戦争遺跡を重点に、戦後第一海軍燃料廠の施設17万坪が平和利用され区役所、病院、学校、鉄道、ストアー、一般・県営・公務員住宅、保健所、県営地球プラザ、公会堂、スポーツセンター、ケアプラザ、企業活動などに変貌発展してきました。

この他、近辺に本郷総名主梅沢家—広地稲荷・耕地薬師—和田集落遺跡と塚—和田石仏群—中坪公園—新宿—大坪—新橋—道標—地藏など遺跡がありますが見るべきものは少なく話だけが大部分で時間の関係で省略させて頂きました。ご希望の方が居られれば来春でもご案内致します。(木島)

ひとくちメモ

①〇お杓文字様跡

農協の裏手田圃の中に祀られていた、咳の神様とも云われる、風を引くと納めてある杓文字を借りてきてご飯を食べて、なおると新しい杓文字を供えてお礼をした。今は朝日台の神明社に合祭されている。

②〇旧海軍病院

現横浜栄共済病院

③(16)本郷中学校

旧海軍燃料廠の行員養成所跡

④〇鎌倉アカミヲ跡 桂町1コープ 野村湘南本郷台(旧海軍燃料廠第三研究室跡)

鎌倉の学者・文化人が戦後青年教育のため材木座光明寺本堂を借受鎌倉大学(鎌倉アカミヲ)を立ち上げた。2年半後寺院法の改正で借用不能となり、急遽当地に移転した来た。教授陣40名、学生400名を擁するにいたり正規大学に昇格を目指したが指定施設を整備する資金が続かず移転後2年で解散になった。

著名な教授陣を擁した同校が正規大学として存続したなら当地が学園都市として発展していたかも知れない戦後史の一齣であった。

鎌倉アカミヲ開校初期の著名教授陣 哲学者 三枝博音・東大考古学教授 三上次男
服部之総・山口政雄・歌人 吉野秀雄・日大工学部教授 春木 猛・菅井準一・村山知義
渡部清子・田辺寿利・長田秀雄・村田武雄・吉田健一・遠藤 弘・文学者 林 達夫
文学者 高見順・山根正道・久保舜一・鳥井博夫郎・黒田俊夫 後藤 平・片岡良一
田代三千稔・バリトン歌手 笠松重三郎演劇家 遠藤慎吾・東大教育学教授 宮原誠一 ほか。

⑤〇海軍燃料廠正門跡

城山橋の手前が正門・柏陽運動場東側が東門で、本郷台駅・フジスーパー・地球プラザ・柏陽高校・区役所・警察署・公会堂・農協・地区センター・消防署・共済病院・本中・鎌倉女子大・警察学校・信光社・下水処理場・本郷台駅駅前高層住宅・等一帯並びに笠間の公務員住宅将校クラブ・小菅ヶ谷住宅・岩井口職員住宅・と広大な敷地と施設を擁し、大船から笠間を経て警察学校に至水道が引かれ水道道と呼ばれた、この道に沿って鉄道が引かれ小型のSLが貨車を引いて走っていた。戦後に解ったことだか、ジェット燃料の研究が行われ、この燃料で「秋水」というジェット機のテスト飛行が追浜の海軍飛行隊で行われた。

⑥〇燃料廠万年塀の名残

区役所正門右側に燃料廠の万年塀が残っている。

⑦○学校橋

旧本小に通う子供達のために作られた木橋で何時云うと無くこの名が定着し、
今も小さな橋だが鉄製に変わっている。

⑧○燃料廠万年塀の名残

柏陽高校東側の一部に燃料廠の万年塀が残っている。

⑨○海軍燃料廠東門跡

⑩○旧本郷小学校校庭尊徳石像小菅ヶ谷21・慰霊碑 柏陽21

柏陽団地の裏に隣接して残されている。尊徳像はS17.5.9金属回収令によりセ
メントでへ作り直された。柏陽21宅地内(元は本郷小西側に奉安殿あり忠魂碑・
海軍かえら貸し出された魚雷が飾ってあった。)

忠魂碑 M39.12 海軍大将東郷平八郎書 本郷村中

M37.8年戦没(日露戦争)6名

慰霊碑 S30年建長寺雲華九十翁大誓寺住職塩沢栄昇師書本郷慰霊碑建設委員会
日露戦争 8名 支那事変 11名 大東亜戦争 193名

⑪(26)地球プラザ(昼食)

県民憩いの場各種文化施設あり。栄リリースが併設されている。

(七石山横穴墳パネル・燃料廠施設パネル・秋水パネルの説明)

⑫○燃料廠万年塀の名残

信光社の一部に残る。

⑬小菅谷村名主

田中家鎌倉時代からの旧家、重厚な長屋門が残っている。

⑭○七石山遺跡

横穴墓が百数十あったが根岸線建設で壊滅数基が残ったが破損激しく、最近開
発の話もあり七石山遺跡は霧散し話だけが残ることになりそうだ。

⑮本郷台西公園

⑯○海里橋

狹川＝出で立ち川・海里橋＝帰り橋と対語とする説がある、狹川を挟んで区域が乖離^{カイリ}しているところから来た当て字の説もある。前者はあまりにも尤も過ぎる、小生は後者の説をとりたい。

⑰○海軍燃料廠西門跡

現警察学校西門がある。

⑱○水道道

海軍燃料廠へ水道管が敷設された道、後に大船からこの道に線路を敷設し物資資材の搬入に使用されていた。

⑲○海軍燃料廠分室・官舎

現鎌倉女子大(子安の子安の京浜女子家政理学専門学校がS20.5.29戦火で焼失S21.1.15当所に移転現在鎌倉女子大に校名変更された)

⑳○公田交差点

解散。

この付近に次の旧跡あり今回は時間の関係で割愛しました。

○本郷総名主梅沢家

本郷の総名主として活躍された家柄で梅沢代官といわれるほど権勢を誇っていた時代があった。裏山の屋敷墓に何故か十字架を刻んだ墓が1基建っている、当家の話によると檀家寺の過去帳にキリシタンと記録がある、珍しいのか学者が良く訪ねてくるとのこと。

○広地稲荷と広地薬師 小菅ヶ谷2-16先

境内に可愛い双体道祖神も祀られている。前には青面金剛像・地藏菩薩が有る。稲荷の右を入ると石造り丸彫りの薬師如来像が祀られている。

○和田の集落遺跡と塚 小菅ヶ谷2381先

本郷台駅の東桂・遠藤線切り通しの山頂に縄文・弥生・古墳時代と続く集落があった。近く大木の下に何時のものか解らない塚がある。

○和田の石仏群 小菅ヶ谷1-18先

双体道祖神(七石和田講中造)・庚申塔・徳本六字名号塔・不動明王・二十三夜塔・
往古横死者諸霊塔(梅沢与次右衛門造)・がある。

○中坪公園 小菅ヶ谷1-3

班田収受区割り単位を坪といい、坪には呼び名が付けられ今日まで残ってきた。

○新宿

ドミール新宿と記されたマツヨシがある、仁治元年(1240)北条泰時が山之内道路を完成させ東の方宿の山から移り新宿と称した。

○大坪 小菅ヶ谷2-33先

大坪は班田収受坪名の名残。大坪に大蛇が住まい花嫁を度々襲い難儀していた、飯島の若者が女装し蛇に飲まれ腹の中を散々切りまくり退治した。この大蛇を葬ったのが蛇塚で小菅ヶ谷2-31辺りに有ったという。

(15)新橋

戸塚への中の道(山ノ内道)と弘明寺への下道の分岐点。相模風土記に「鎌倉古道に係る所橋を架す、長六間新橋と唱ふ」

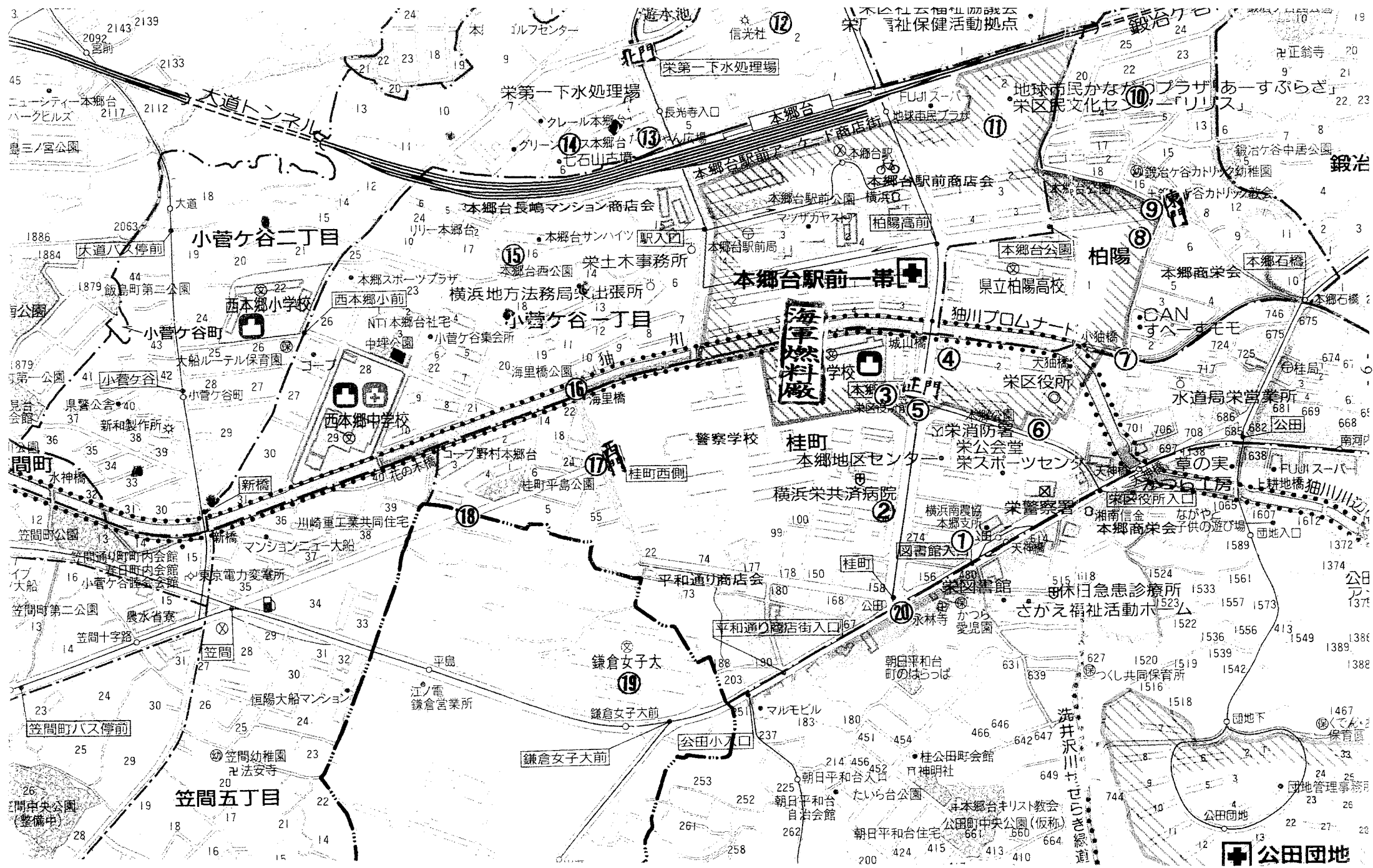
○道標ぐみょうじ道

とつか道・くみょうじ道とあり奉造立庚申供養同行八人と刻む。

○地藏堂 笠間と小菅ヶ谷の境界にある

8月26日に地元の地藏振興会がお祭りをして居る。

以 上



公田団地

① 海軍燃料廠の進出 (太平洋戦争の開戦)

② 本土決戦に関する遺跡 (終戦まで)

① 昭和12年(1937)7月、日中戦争が始まりました。そして、その拡大につれて、横須賀海軍鎮守府は、航空燃料の確保と研究に力をそそぎ始めました。戦争の中心が、軍艦から航空機に移りつつあったからです。

鎌倉郡本郷村に燃料廠が建設されたのは昭和9年(1934)からです。

土地は半ば強制的に買い上げられ、今の本郷中学校の裏の公務員住宅のところにあった城山(白山)はそっくり削り取られて、水田を埋め立てるのに使われました。燃料廠の拡張を指揮したのは加野という大佐でした。

加野大佐は、まずいたち川流域の桂町、公田町、中野町、小菅ヶ谷町の低湿地に目をつけ、土地を買収しました。

その総面積は17町歩、17万坪です。燃料廠は昭和13年にはほぼ完成し、操業を開始しています。

南側が本郷中学に面したところに、正門を置き、東、西、北にも門がありました。初代の廠長は、柳沢という海軍少将で、小菅ヶ谷の大坪に官舎がありました。燃料廠が操業を開始すると、昭和17年には、今の六浦原宿線が笠間十字路まで開通し、相武トンネルもこのとき出来ました。

旧鎌倉郡本郷村は、昭和14年に横浜市戸塚区に編入されていますが、なんせ、役所も含めて電話が2本、バスも通っていなかったそうで、人を集めるのが大変だったようです。戦争が激しくなると、村の人は遠ざけられ、現在の本郷台駅のある周辺には多くの地下トンネルが掘られ、その奥に、燃料の貯蔵庫や防空壕が造られました。その造成にあたったのは動員された学徒や強制連行された朝鮮人だったとする話もありますが、詳しい調査はされていません。(証言、資料でつづる「燃料廠の総力戦」菊田清一著書より)

参考年表： 昭和9年(1934) 土地の買い上げ始る。

昭和12年(1937) 日中戦争始る。(16年太平洋戦争はじまる)

昭和13年(1938) 第一海軍燃料廠完成、17万坪

昭和14年(1939) 鎌倉郡より横浜市戸塚区に編入 (20年敗戦)

昭和27年(1952) PX～昭和42年(1967)

昭和43年(1968) 七石山横穴古墳群 100基発掘

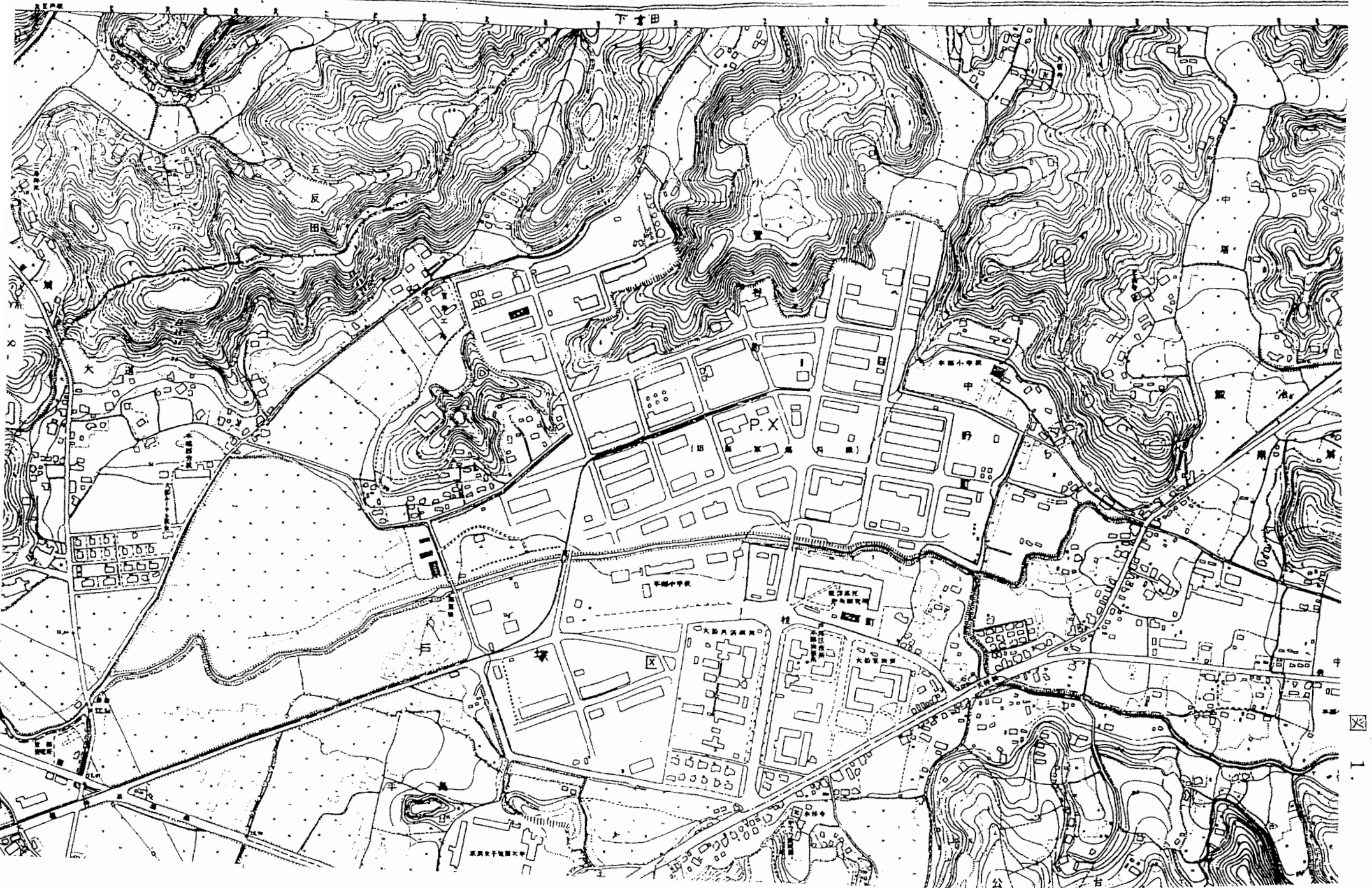
昭和48年(1973) 本郷台駅開業、大船駅まで全線開通

昭和61年(1986) 榮区の誕生 11月3日 来年20周年。

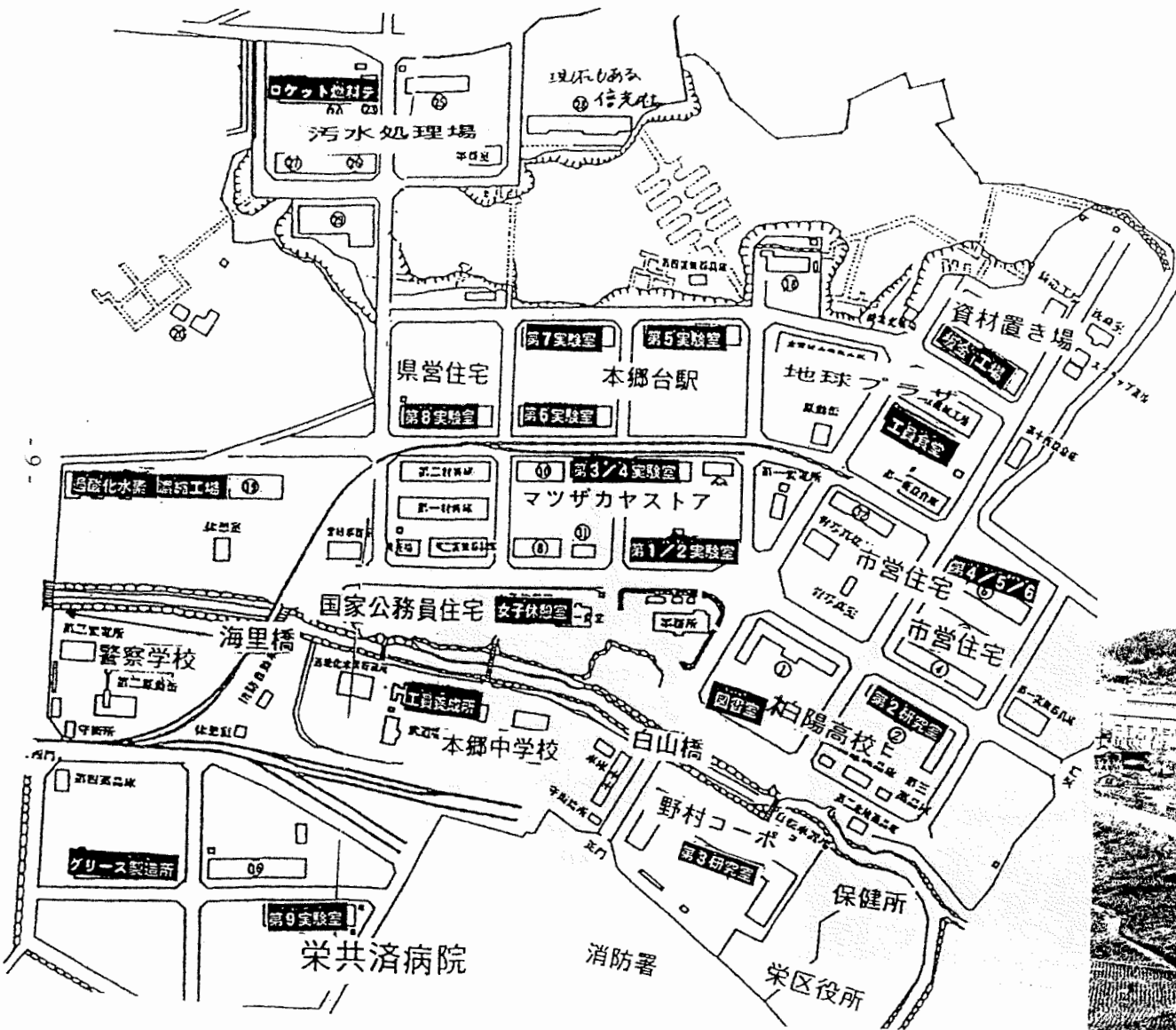
添付書類： 地図 A 昭和27年頃の付近図 1枚

B 燃料廠の配置図より現在の企業名図 1枚 以上

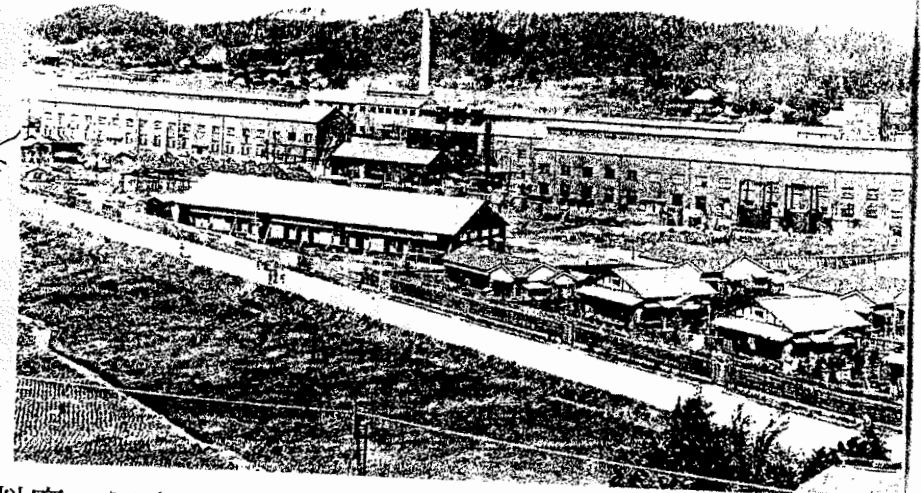
P X付近図 (昭和27頃)



現在の付近図



大船駅から燃料廠までは物資を運搬するために、引き込み線が敷かれた。周辺の道が雨でぬかるむため、当時の人は線路の上を歩いたものである。(昭和35年頃)



旧第一海軍燃料廠の写真

写真中央の大きな建物は研究棟。その手前には、工員食堂。(昭和15年頃)

菊田清一

はじめに 大病を得て、定年まで休職して療養を続けながらも12年になる。5ヶ月の間生死の間をさまよいながら、まだ遣り残していることが気になった。ゆっくり散歩しながら、周囲の変貌に驚いた。マンションの開発で、斜面が切り崩されている。駅裏の山の燃料廠の地下壕も、頂上の高



燃料廠裏山の給水施設



爆風よけのある燃料廠の地下壕



コンクリートの見事な燃料廠の地下壕

鎌倉街道・六浦原宿線沿いの本土決戦用の地下壕

射砲の台座も給水施設も消えてなくなる。水の口山（通称富士山）の銃眼も、上郷の民家裏の壕も、跡かたも無くなる。やむを得ず、書く順番を変えることにした。

- ③「第一海軍燃料廠とその周辺の戦争遺跡」
- ②「燃料廠の総力戦」（特殊燃料と代替燃料）
- ① よみがえるロケット戦闘機「秋水の物語」

燃料廠について

本郷台の駅についた友人が必ず言う。「なんか、がらんとしているね」。「昔の燃料廠の跡なんだよ」。

駅前には文化財の案内や本郷の由来の碑はあるが、かってここに海軍の燃料廠があったという痕跡も説明板もない。多くの新住民はたった60年前のことを何も知らずに駅に吸い込まれていく。せめて、裏山に残されている「海軍用地」の石標を残し、アースプラザにでも説明板をと運動を始めたが、横浜市からの返事は一枚の返答書で終り。地域も動かない。無力感が残された。

燃料廠の地下施設、地下壕

根岸線の裏、FUJI スーパーと小菅ヶ谷ケアプラザの裏には地下壕や地下工場がある。そこにマンションができることになった。戦争の末期、燃料廠防衛のために山梨の甲府から動員された中学生や第二国民兵と呼ばれた老兵たちが昼夜兼行で掘らされた穴で、機関銃座が空に向かって開いていた。そんなことは何もしらされずに、また新しい人が増えていく。

戦争も最終段階に入り、連合軍の上陸作戦（「コロネット作戦」）が想定された。相模湾が有力な地点

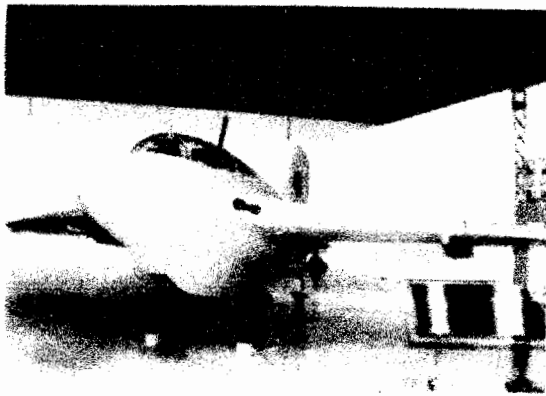


中野・富士山下地下壕の銃眼

とされ、水際作戦と鎌倉山を盾とした防衛線が敷かれた。さらに、そこが突破された場合のゲリラ戦を想定したのが本郷の地下壕である。防空壕と違うのは、覗き穴や銃眼が設置されていることから攻撃用の地下陣地だということがわかる。

幸いにして、作戦は変更され、広島・長崎の原爆投下になった。そのことを考えると胸が痛い。もし、実施されていたら、最大の犠牲をとも

なう悲惨な戦場になったに違いない。女、子供、年寄りの区別はない。



三菱重工の復元「秋水」

特殊燃料・代替燃料について

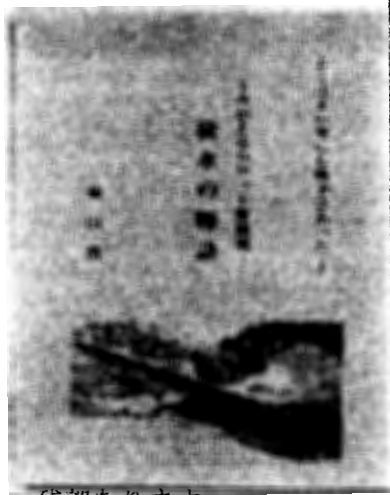
石油を産しないわが国が完全な海上封鎖を受ける。しかし、特攻機が飛んでくる。米軍が燃料廠を占領したのはその理由を明らかにするためであった。戦争末期の燃料廠の秘密の暗号。

「亜号」「呂号」「松号」。「亜」はアルコールのこと。最初は砂糖から、そして、コウリヤン、最後にはサツマイモ。メチールアルコールで走った軍用車。それを飲んで目が見えなくなった人。戦後、なぜかイモだけはあった理由が解けた。銃を持て

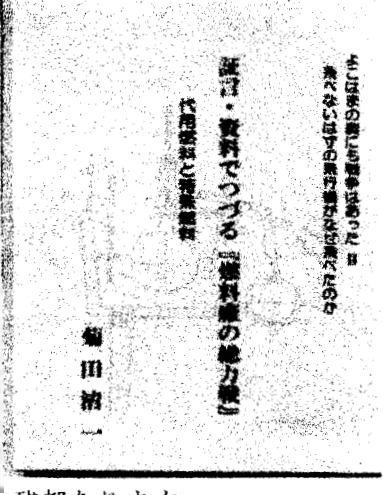
ない老兵や動員された高齢者は松の根っこを掘らされた。「松根油」。「こんなんでもほんとに飛行機が飛ぶのかいね」と思いながら。「呂」はロケットのこと。ドイツからもたらされたロケット戦闘機「秋水」は、1万M上空をわがもの顔で飛ぶ対B29の最終兵器として開発された。燃料は濃縮された過酸化水素溶液とヒドラジン。その化合によって得たガスの爆発力を噴射して飛ぶ。南足柄の江戸川化学（現三菱ガス）で生産された30%の溶液を温めて80%にまで濃縮する。その作業はいたいけなく鎌倉の女学生や山梨の甲府中学の生徒の手で行われた。当時、勤労働員された学徒が従事した最も危険な作業があった。第一は寒川の「毒ガス」。第二は平塚の「火薬廠」。第三は大船の「特殊燃料」。油断すれば一瞬に全身が漂白、火傷で死亡する。こうした勤労働員での事故もいずれは明らかにしなければならない。栄共済病院は燃料廠に付属する海軍病院であった。その玄関にある大きなソテツはその名残である。

さいごに 今、明らかにこの国は変わろうとしている。特に、平和や戦争に関する意識、歴史認識が問われている。都合の悪いことは隠蔽し、目に触れさせないような態度は批判されねばならない。事実とは事実。客観的にそれを認めることから始めなければならない。そういう姿勢がこの国には欠けていた。戦争を地元、足元から見直す。それが私の出発点であった

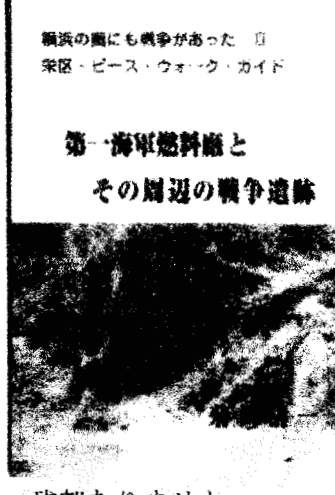
<横浜の奥にも戦争はあった> いずれも 2,000円です。



残部あります。
横浜の富岡で発見された
残骸は三菱重工で復元さ
れた。



残部あります。
アルコール・松根油・ロケット
燃料と燃料廠。勤労動員の状況
について。



残部ありません。
栄図書館で閲覧・貸し出し
できます。

申し込み はがきか FAX でお申し込みください。

247-0004 横浜市栄区柏陽 18-1-405 045(893)5215